学校教育目標	やさしく かしく たくましく
目指す学校像	学校の伝統と地域の実態を踏まえ 人に学び 社会に学び 自然に学ぶ 魅力ある学校
重点目標	1 教育DXによる児童の主体的な学びの推進 2 一人ひとりの多様な幸せ (Well-being) を実現する教育の推進 3 コミュニティ・スクールを核とした学校・家庭・地域との連携・協働の充実 4 安心・安全な「学びの場」としての環境づくり 5 子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価					学校運営協議会による評価		
年度目標					年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○昨年度の全国学力・学習状況調査、市の学習状況調査では、多くが市平均を下回っている。 ○日々の児童の学習の様子から、支援が必要な児童が多い。 <課題> ○基礎・基本の定着、図表などを用いて考えを表現することに課題が見られる。 ○学習規律の定着、児童一人ひとりが主体的に学ぶために、教員が授業改善に取り組んでいく。	・基礎学力の確実な定着 ・学校課題研究や指導訪問などでの授業力向上	①学力調査の結果をもとに、基礎学力の定着、読解力の向上を目指すとともに、学習習慣の定着、生活習慣の形成に取り組む。(マミヤンカード) ②学校課題研究や指導課訪問を中心とし、日々授業改善に取り組む。	①全国学調・市学調の結果を分析し、身に付けさせたい力を明確にできたか。学校評価アンケートにおいて、学力、授業改善の項目で85%以上になったか。 ②学校評価アンケートにおいて、学校課題研究の項目で回答85%以上になったか。			
		・地域の実態を生かしたカリキュラムマネジメントの充実	①地域の実態を生かした「カリマネデザインマップ」をもとに教科横断的な学びを実践し、次年度に向け、見直し・充実を図る。	①地域の実態を生かした教科横断的な学びの実践、2月中に、次年度のカリマネデザインマップの見直しが見えたか。			
2	<現状> ○不登校傾向や配慮や支援を必要とする児童がおり、組織を生かし、迅速な対応、体制が必要。 ○新たな環境へ対応や人間関係の構築に課題がある児童が増えている。 <課題> ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切で迅速な支援を組織的、計画的に行う体制を充実させる。 ○校内委員会等を通して、児童の実態や必要に応じた専門職や関係機関との連携を充実させる。	・児童一人ひとりに寄り添った積極的、組織的、かつきめ細やかな支援体制の充実	①月1回の生徒指導委員会で児童の様子を全職員で共有を図り、積極的、組織的、継続的な対応、きめ細やかな支援をする。 ②担任や担当からの情報が確実に関係主任や管理職に報告される体制をつくり、校内委員会で指導・支援体制を決定し、対応する。	①月1回の生徒指導委員会に児童の情報共有、積極的、組織的、継続的な対応、きめ細やかな支援が見えたか。学校評価アンケート生徒指導・教育相談項目で85%以上になったか。 ②校内委員会の積極的な実施、学校評価アンケートにおいて、組織的運営の項目で85%以上になったか。			
			①児童一人ひとりの思いに寄り添い、クラスで安心して過ごせる場にし、学年・学級での所属感、自己肯定感を高める取組や振り返りを実施する。	①不登校傾向や学校生活に不安を抱える等の児童の思いに寄り添い、不登校や不登校傾向の児童を減らすことができたか。			
3	<現状> ○学校行事や学校 Web ページ等で教育活動の積極的公開をしている。 ○おやじの会など地域の方々や児童とのかかわりが計画的に実施されている。 <課題> ○学校運営協議会を中心としたコミュニティ・スクール体制、SSN 等との連携を強化する。 ○学校・家庭・地域での取組として「あいさつ」「読書」に取り組んできたが、読書については継続しての取組が必要である。	・コミュニティ・スクール体制を充実し学校、家庭、地域の協働の充実	①コミュニティ・スクール体制のより一層の充実。 ②学校、家庭、地域が一体となった取組を学校運営協議会に計画代表委員の児童が参加して話し合い、実施する。	①学校、家庭、地域が一体となった取組を実施し、コミュニティ・スクール体制を充実させることができたか。 ②学校運営協議会に計画代表委員の児童が参加し、学校・家庭・地域で取組について主体的に話し合いをすることができたか。			
		・「読書活動」の推進 ・学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動の実施	①「読書活動」の取組を計画的、継続的に実施し、読書活動の充実を図る。 ②学校運営協議会の内容を SSN や学校 Web ページ等で共有し、あいさつ運動を実施する。	①「読書活動」の取組を継続し、年間を通して読書時間の増加 ②学校運営協議会の内容について SSN や保護者等に共有・周知し、重点項目について学校評価アンケート85%以上になったか。			
4	<現状> ○児童が安心して過ごせる居場所(教室、Sola る一む、保健室等)づくりに取り組んでいる。 ○校舎内外の美化及び清掃活動を通して気持ちのよい、落ち着いた環境づくりに取り組んでいる。 <課題> ○施設・設備の老朽化や不具合等が見られる。 ○清掃時間は児童と共に教員も清掃活動に取り組んでいるが、発達段階に応じた指導が必要。	・全ての児童が安心して過ごせる居場所の整備・充実	①毎月の安全点検、日常の安全管理を行い、修繕等が必要な場合は迅速に対応する。 ②全ての児童が安心して過ごせる居場所、児童の励みとなるよう教室等のユニバーサルデザイン、校内掲示等を工夫していく。	①安全点検の結果や修繕箇所に対応し、改修することができたか。 ②教室や校内掲示等定期的に作成や貼り替えを行ったり、児童の頑張りが分かるものにしてきているか。			
		・学校全体で取り組むよりよい環境づくり	①無言清掃、協働活動で教員も児童と一緒に清掃活動を行い、気持ちのよい環境づくりを行う。 ②学校敷地内の計画的な栽培や定期的な整備を行う。	①児童一人ひとりが日々の清掃活動を進んで行うことができたか。 ②学校評価アンケートにおいて、安全管理、施設・設備の状況の項目において90%以上になったか。			
5	<現状> ○ICTを活用することにより業務改善が進んできている。教員のICT活用については、やや個人差がある。 ○分掌による仕事量増、児童・保護者対応等により、業務過多や負担が大きい職員も見られる。 <課題> ○学校課題研究でICTの効果的活用の授業改善に取り組み、教員の授業力向上に繋げる。 ○業務のスリム化、分掌内の連携等、随時見直し、教職員が安心とやりがいをもって業務に取り組めるようにすることが必要である。	・学校職員一人ひとり、また組織としての力を発揮し、馬宮東小学校の誰もが働きがいの学校づくり	①学校課題研究や指導訪問等での授業改善を行っていく。また、学校DX推進部を中心にICTに係る研修を実施し職員一人ひとりの資質向上を繋げる。 ②人事評価制度を活用し、全ての教職員の資質向上や授業改善に繋がられるように、目標設定、途中経過確認、振り返りを行う。 ③業務の精選や各行事の反省をもとに、随時業務の見直し、教職員の負担軽減を図り、協力し合える、相談しやすい職場環境づくりをする。	①学校評価アンケートにおいて、学校課題研究、ICT活用の項目で85%以上になったか。ICT研修を学期2回以上実施できたか。 ②人事評価制度を活用し、全ての教職員の資質向上や授業改善等について、キャリアの振り返りシートをもとに指導・助言ができたか。 ③業務の精選、見直しを新たに図り、保護者に周知し、理解を得る。学校評価アンケート肯定的回答85%以上、職員の勤務に関するアンケート業務負担感減。			

学校運営協議会による評価
 実施日令和 年 月 日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等